

皮膚科～乾癬に対する『バイオ治療外来』のご案内

令和2年1月～
開始!

乾癬は、浸潤を伴う紅斑と銀白色の鱗屑が特徴の慢性炎症性疾患です。日本では、人口の0.3%にあたる43万人が罹患していると報告されています。被髪頭部、四肢伸側、腰部などの外的刺激が多い部位に見られますが、患者さんによっては全身の皮膚に及んだり、爪に異常がみられることもあります。鱗屑を剥がすと点状出血を認めるAuspitz現象が診断のポイントとなります。皮膚の症状だけでなく、関節に腫脹や変形、疼痛などの症状がみられることもあり、乾癬は皮膚だけの疾患ではないことが分かってきています。乾癬の患者さんは外観、痒み、関節痛などの症状により、精神面、社会生活面でQOLが著しく障害され、その程度は癌、心疾患、糖尿病と同等以上と報告されています。

乾癬の治療法は、外用療法、光線療法、内服療法、生物学的製剤の4つに分けられ、当科では、それぞれの患者さんの症状やライフスタイルに合った治療

法を選び、皮膚や関節をより良い状態にコントロールすることで、患者さんのQOLを高めることを目的に治療しています。

今回、4つの治療法の中でも、近年特に目覚ましい進歩を遂げている、生物学的製剤による治療を専門に行う『バイオ治療外来』を、令和2年1月から開始します。従来は難治性疾患と言われた乾癬は、生物学的製剤の登場により、皮疹がない状態にまで改善することが可能となり、患者さんによっては外用療法が不要となります。進行性の関節破壊をきたす関節性乾癬については、日常生活に支障が現れる前に関節破壊を抑制することが重要であり、早期からTNF α 阻害薬の使用を考慮することが推奨されています。病態に基づき生物学的製剤を使い分け、患者さんの重症度やライフスタイルに合った治療法を患者さんと話しながらか選択していきたいと考えています。

《生物学製剤による治療例》

40代 男性

- 診断名：関節症性乾癬
- 治療：IL-17A阻害薬（皮下注射）

治療前の状況

DLQI：11点
関節の痛み：10点

治療3か月後の状況

DLQI：0点
関節の痛み：1点

額部 (治療前)



(治療2週間後)



★DLQI：患者さん自身が評価する方法

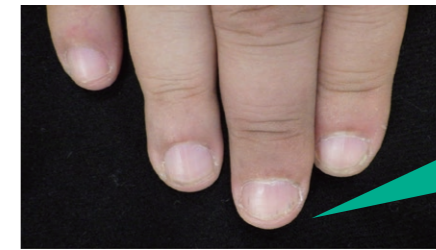
DLQI (Dermatology Life Quality Index):

患者さんが皮膚の状態によって感じる日常生活の不便さについて、代表的な10の質問に回答し、その回答を点数化します。点数の範囲は0(生活の質が最も良い)～30(生活の質が最も悪い)で判定します。治療の効果は点数がどの程度低下したかどうかで判定します。

指関節・指爪 (治療前)



(治療2か月後)



爪の状態が大きく改善しています。

背部 (治療前)



(治療3か月後)



治療前は、箸が持てない、皿が洗えないなどの生活に支障がありDLQIは11点でしたが、治療後は、痛みが軽減し、爪などの状態も改善したため、DLQIは0点になっています。なお、本症例は現時点で副作用は確認されておりません。

※写真掲載については、患者さんの許可をいただいております。

趾爪・趾関節 (治療前)



(治療3か月後)



《当科で採用している生物学的製剤》

- TNF α 阻害薬
- IL-23阻害薬
- IL-17A阻害薬

※乾癬における生物学製剤の承認施設は、長崎市内では4医療機関です。※生物学的製剤による検査・治療は保険適応です。

《外来概要》

対象患者

- ① 外用や内服で難治であった尋常性乾癬
 - ② 関節痛を伴う乾癬性関節炎
 - ③ 全身症状を伴う難病に指定されている膿疱性乾癬
- ①～③のうち、皮膚科に通院中のDLQIスコア5点以上の乾癬患者

診察日

平日 水曜日 午後2時～4時

受診方法

予約制の外来です。患者総合支援センターにてご予約をお取りください。

予約方法

FAX：095-821-1116 「紹介患者診療申込書」をお送りください。
TEL：095-895-5888 (患者総合支援センター 直通番号)
担当医：東 江里夏 (日本皮膚科学会認定皮膚科専門医)

治療の適応など、ご不明な点がございましたらお問い合わせください。

長崎みなとメディカルセンター TEL：095-822-3251 (皮膚科 東まで)
(医療機関からのお問い合わせに限らせていただきます)